平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号）	提案機関名	農業振興課
２１ ※記入不要		

要望問題

たい肥の評価基準の作成

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

家畜排せつ物処理法により、家畜の排せつ物がそのまま投棄することができなくなるため、たい肥が大量に生産されることが予想される。

その一方、耕種農家においてはたい肥を使用したいが、自分の栽培品目に生産されるたい肥が合致しているか試してみなければならないことから、流通コストがかかっても県外から購入している方もいる。

そこで、県内でのたい肥の「地産地消」を促進するため、簡易にたい肥成分を測定した結果から診断できるたい肥の評価基準を作成していただくことを望む。

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所
部　　署：農業環境部	
対応区分	①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

①　　有機性廃棄物混合堆肥の品質評価法の開発（平成 17 ～ 19 年）

②-ア　有機性リサイクル製品の有効性、安全性の調査（平成 13 ～ 16 年）

②-イ　LIBS 法による新たな堆肥成分分析法の開発（平成 16 年度　重点基礎研究）

対応の内容等

堆肥成分分析は、従来の手法の比較だけでなく、新たな装置を使った堆肥の簡易成分分析手法について、経常研究及び重点基礎研究（平成 16 年度）において検討を行っています。次年度新たに課題化し、継続して検討します（②ア、イ及び①）。

また、堆肥の評価基準に関しては、次年度に課題化し対応する予定です（①）。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	畜産研究所との共同研究を予定。